

第31回 記者懇談会実施概要

1 日 時 平成16年4月21日(水) 15時～

2 場 所 ソシオネットワーク戦略研究センター 6階
R C S S ・マルチメディア・ラボ

3 内 容

(1) 研究発表 (15:00～15:40)

・鵜飼 康東 ソシオネットワーク戦略研究センター長・総合情報学部教授

発表テーマ「公的金融機関の情報化と人的資本および組織の相互依存関係」資料1

・大場 謙吉 先端科学技術推進機構長・医工薬連携研究センター長・工学部教授

発表テーマ「医工薬連携研究センターにおける先端的研究」資料2

(2) 質疑応答 (15:40～16:00)

(3) 学内状況説明・情報交換 (16:00～16:30)

① 2004年度入学試験(一般入試・センター利用入試)の結果 資料3

② 2004年度法科大学院入学試験の結果 資料4

③ 「スーパーSINET」接続拠点に選定

④ 中之島センターを開設 資料5

⑤ 長岡京市、東大阪市、茨木市及び高槻市教育委員会と

連携協力に関する協定(または覚書)を締結 資料6

⑥ 陳舜臣展及び同記念フォーラムを開催 資料7

⑦ 博物館開設10周年記念平成16年度企画展及び記念講演会を開催 資料8

⑧ 法科大学院開設記念シンポジウムを開催 資料9

⑨ おおさか文化セミナー(平成16年度前期)を開催 資料10

⑩ 発明の日記念講演会を開催 資料11

⑪ 平成16年度教育後援会総会・学部別教育懇談会を開催 資料12

⑫ 点訳ボランティアサークル「STEP」が

学生ボランティア団体助成金の対象に決定 資料13

4 大学側出席者

河田悌一学長、小幡 齊副学長、広兼道幸学長補佐、鵜飼康東ソシオネットワーク戦略研究センター長・総合情報学部教授、大場謙吉先端科学技術推進機構長・医工薬連携研究センター長・工学部教授、迫川叡作企画室長、藤本清高広報課長

5 参考資料

(1) 2004年度高大連携プログラムのご案内

(2) 研究所報 No.29

(3) 先端機構ニュース Vol.29 No.4

(4) 技苑 2004 NO.117

(5) 関西大学年史紀要 第15号

(6) 関西大学ニューズレター『Reed』第2号

(7) 黒上晴夫編著『教育改革のながれを読む』(関西大学出版部発行)

以 上

郵便貯金の I T 戦略

関西大学ソシオネットワーク戦略研究センター長

総合情報学部教授 鵜飼 康 東

日本の全国銀行136行は、約1万5,000の店舗、約7万9,000のATM、約3億2,000万枚のキャッシュカードを大きな支障なく稼働させてきた。そのシステム運用は、約2万4,700の郵便局が約2万5,000のATMと約8,800万枚のキャッシュカードを稼働させてきた郵便貯金事業よりもリスク管理面で優れている。郵便貯金事業は、236兆円という貯金残高に比して、情報システムの知的蓄積が乏しい。具体的に言えば、鵜飼（2003-A）で証明されたように、ハードウェアよりもソフトウェアの拡大が必要であり、次に、ソフトウェアよりも人的投資の拡充と経営組織の改変が必要となる。鵜飼（2003-B）は、郵便局長アンケートにより、ITと企業組織の間に統計的に有意な関係があることを明らかにした。すなわち、従来型の局・部・課を組織運営の中心に据えた集権型経営組織よりも、プロジェクト方式にもとづく自由で大幅な権限委譲を受けたチームを主体とする分権型経営組織のほうがIT生産性に優れている。

【プロフィール】

経済政策論担当。1946年中国遼陽市生まれ。早稲田大学政治経済学部を経て72年一橋大学経済学修士を取得。75年本学経済学部専任講師、80年助教授。94年より総合情報学部教授。

81年7月から1年半フルブライト研究員としてハーバード大学に、また89年9月から1年間シニア・アソシエートとしてオックスフォード大学に留学、計量経済学を学ばれた。

学風は新古典派に属され、財政金融政策の効果を否定される。近年政策分析に御活躍で、『日本経済新聞』、『週刊エコノミスト』、『週刊東洋経済』等でお名前を拝見する。74年に角川短歌賞を受け、80年に歌集『断片』（角川書店）を出版しておられる歌壇の重鎮。

総合情報学部開設準備委員会副委員長、関西大学協議員、日本公共政策学会理事を歴任。2002年度より文部科学省学術フロンティア推進拠点「関西大学ソシオネットワーク戦略研究センター」のセンター長として阪大、九州大、早大、神戸大の教授達を指揮されている。

医工薬連携研究センターにおける先端的研究

先端科学技術推進機構長・
医工薬連携研究センター長・
工学部教授 大場 謙吉

関西大学医工薬連携研究センターは、医学、工学、薬学に精通した他大学、企業、研究機関の研究者との共同研究によって人工臓器を含む先進的な診断・治療技術、機器および医薬を開発することを目的として本年2月に先端科学技術推進機構内に創設された研究拠点である。本学では、以前よりナノテクノロジー、バイオ、情報、医療、医薬分野を横断する共同研究を学内外で進めており、それらを本研究センターに結集して、研究開発のさらなる進展を図っている。進行中の研究の中から、今回は次の3件の先端的研究を紹介したい。

(a) 脳磁気測定による脳梗塞痺患者の運動機能回復度診断 [小谷健太郎・助教授 (工学部・システムマネジメント工学科) と大阪医科大学および産業技術総合研究所との共同研究]

脳梗塞からの回復期における梗塞部位神経の活発な電氣的活動を脳磁界応答計測によって捉えることに成功しており、運動機能回復度の新しい診断法を提供出来そうである。

(b) 模擬／人工血球としてのミクロンサイズの高分子ゲル微粒子の創製 [大場謙吉・教授 (機械システム工学科)]

直径数ミクロンで粒径がきわめて良く揃った柔軟弾性高分子ゲル微粒子の作製に成功した。模擬／人工赤血球や血小板、超音波造影剤等の幅広い用途が見込まれる。

(c) 凸レンズ面状先端を持つ光ファイバーレーザー血流速度センサー [大場謙吉・教授 (機械システム工学科)]

直径約 100 ミクロンの単一光ファイバーによってヒト全血中の局所流速を正確に測定できるセンサーを開発した。血管等の新しいカテーテル診断技術として、また工業的には種々の不透明流体用として実用化できそうである。

【プロフィール】

1942年広島県因島市生まれ。1964年3月大阪大学工学部造船学科卒業。1969年3月同大学院博士課程(超高温理工学研究施設)単位習得退学。同年4月同大学工学部助手。1973年9月「電子ビーム蛍光法を基準測定法として用いた高速イオンゲージの研究」にて工学博士の学位を取得(大阪大学)。1980年4月関西大学工学部助教授を経て、1988年4月同大学教授となり現在に至る。この間、1989年4月から1990年3月まで関西大学在外研究員として、英国 Imperial College および Harwell Laboratory に滞在。2001年4月関西大学工業技術研究所・所長、2002年4月より関西大学先端科学技術推進機構・機構長(工業技術研究所からの改組・改名に伴う)を務める。2003年再任(任期:2003年4月より2005年3月まで)。